

## 令和3年度 第3回 国産材の安定供給体制の構築に向けた 東北地区需給情報連絡協議会 議事録

- 1 日時：令和4年1月20日（木）13:30～15:30
- 2 場所：ウェブ会議（Zoom）
- 3 出席者：別紙のとおり
- 4 議事次第及び配付資料：別紙のとおり
- 5 概要

### （1）冒頭挨拶

#### ○東北地区需給情報連絡協議会 鈴木 会長（ノースジャパン素材流通協同組合 理事長）

現在の状況は3大ショックと言われる状況、1つ目はコロナ急拡大による急拡大ショック、林野庁はじめ東京方面からの参加者はウェブ参加となっている。2つ目は年末から続く寒波ショック、雪が降り続いており、高田座長も能代市の大雪の影響を受け、本日はウェブ参加となっている。3つ目はウッドショック、ウッドショックの影響から仕事が忙しくて、会場に来られない方がウェブ参加となっている。

東北地区で当協議会を開催する理由は他の地区と事情が異なるということかと思われる。とりわけ、合板、集成材など大型工場が多いのが特徴であり、このような大型工場に安定して木材が供給されるかが課題になる。また他の地域のように木材市場で価格変動するというより、直送の割合が多く、価格動向が見えにくいという特徴がある。林野庁から統計について説明いただくが、統計に表れない木材流通問屋の在庫状況や合板・集成材用として内航船で西日本に向かった分量がどの程度あったのか等、実感と差がある部分が多分にあるかと思う。こういった内容について情報共有していきたいと考えている。本日はよろしくお願ひします。

### （2）議事

#### ○秋田県立大学 木材高度工研究所 高田 教授（以下、座長）

前回の協議会では輸入材、国産材の需給情報について話をいただき、木材価格が高止まりしながらも、入手できるようになったが、合板が不足しているとの話だったかと思う。今回は、全国の情報について共有するとともに、東北の方々がどのような実感でいるのか、他の地区と違うのか、という点について話していきたい。

それではまず資料について林野庁から説明をお願いします。

#### ○林野庁 木材産業課 永島 課長補佐

資料1～3について説明。

#### ○高田 座長

輸入量は若干回復傾向だが、ウッドショックの原因となったアメリカの住宅事情や製材価格が落ち着いた後に、また値上りし始めており注視が必要。また材価について、柱と間柱が以前の約2倍となっていることに驚いている。

構成員の皆様からは、全国の状況と東北の状況がどの程度違うのか、また今後の見通しについても伺いたい。特に部材の入手状況、新規の受注状況、価格転嫁について、今後の見込みも含めて、まずは川下からお願いします。

#### ○（一社）JBN・全国工務店協会 加藤 理事

林野庁の説明にあったように合板価格が上昇している。以前の2倍近い単価となっており、

入荷も出来ていない。工期は一か月程度延びている。

今後の住宅受注はコロナが原因でイベントが出来ていないため、先々の受注見通しが難しい状態となっている。

#### ○全建総連 北海道・東北地方協議会 宮城県建設職組合連合会 鎌内 会長

総合的に受注状況を見ると、前回の協議会より下がっている状況。木材価格を見ると林野庁の説明通りに落ち着きを取り戻しているが、高止まりとなっている。

1番心配なのは合板関係で、入荷不足による高騰が起きている。その他に東南アジアからの入荷不足によりMDFが不足しており、工期が延期している。住宅設備関係の入荷も昨年度から引き続き、相変わらず3、4か月程遅れており、戸建て関係の業者は厳しい状況。コスト高による受注減となり、コロナによるダブルパンチを受けている状態。

#### ○高田 座長

MDF等のボード類の入荷が不足している。住宅受注も下がっているとの話だったかと思う。続いて川下に近いプレカットについてお話を伺いたい。

#### ○久慈プレカット事業協同組合 日當 専務理事

昨年は案件をいただいても資材が入らないため、タイムリーな加工ができなかった。12月になると資材の手当ても順調になり、顧客のニーズに100%応えられる樹種の供給だけでなく、代替樹種を活用した資材の供給が順調に出来るようになってきている。遅延もなくなり、求められた納期で納められるようになったところ。

価格の情報としては、12月には高止まりになっていたが、秋口くらいまでは来月、再来月と上がり続けるのではないかと危惧しており、見積もりを出すのに苦労していた。1月になり、今の価格で当分推移していくのではないかと考えている。

合板の手当てはプレカット工場が担当するのが一般的だが、屋根などの一部の部位によっては、工務店が建材ルートで担当する場合もある。納期に間に合わないので、プレカットからの合板の手配はお断りし、建材ルートで確保するように依頼するといった話も聞いている。

私も合板の手当てをする立場でもあるが、限定されたお客に割当てしかない状況。昨年の春頃は木材の手配ができず、プレカットの納期を調整することがあったが、最近は合板の入手状況次第でプレカットの納期を調整している。

北東北に限った話だが、1から3月は住宅着工が落ち着くので、春に向けた手当てを進める時期であり、材料の不足感は多少軽減されている。今年の春も、また同じことが繰り返されてしまうのではないかと危惧している。

#### ○(株)山形城南木材市場 安部 代表取締役社長

秋以降、製品は高止まりだが入手しやすくなってきている。合板も何とか手に入れて繋いでいた。

年末から年明けにかけての市場では、プレカット工場や大手の材木屋が3月の決算期を前に高い製品を抱えて年を越したくないということで、買い控えが見られた。手持ちの在庫を整理したいという考えだと思う。

プレカットは2、3月の物件の見積もりが忙しい状態。雪が降っているため生産が落ちており、今後忙しくなりそうな見通し。今現在、製品の荷動きが悪く、買い方が様子を見ている。出荷する荷主さんも原木高に困っていて、特にグリーン材は採算が取れず、KD材もぎりぎり採算が取れる状態。生産量も増えていない。

関東の間屋からは、もう一度ウッドショックが来るのではという話が出ているとのこと。

#### ○高田 座長

住宅価格への価格転嫁について、現状はどうなっているのか。

### ○(一社)JBN・全国工務店協会 加藤 理事

資材発注してから入荷するまで、1から2か月程度の遅れが発生しているため、顧客に住宅価格への価格転嫁は求めにくくなっている。ハウスメーカーと違い、住宅単価を上げることもできないので、苦しみながらやっているところ。

### ○全建総連 北海道・東北地方協議会 宮城県建設職組合連合会 鎌内 会長

価格転嫁については資材が上がっていけば多少あると思うが、顧客のことを考えると大きく値上げはできず、業界としての利益は間違いなく減少している。利益が減少した時にしわ寄せが来るのは建物を建てる、いわゆる労働者ということになる。

このような状況を少しでも早く打破してほしい。

### ○高田 座長

今の状況が続くと、価格転嫁もできず、特定の業態、業界の方が苦しむという不健全な状態になる。木材に対する評価にも影響が出る可能性があるかと危惧している。流通全体で現状と課題を認識することが必要であり、そのための協議会でもある。

続いて、川中に前回と比較しての材の集荷状況など聞いていきたい

### ○秋田県木材産業協同組合連合会 鈴木 専務理事

製材は昨年末頃に、ある程度の受注残は解消できたと聞いている。しかし、県外向けに構造材を販売している量産工場はまだ受注残があり、フル生産していると聞いている。また、雪の多い地域であり、生産量は減ってきている。

1番の問題は県内の木材産業の特徴として羽柄材を生産している工場が多く、ウッドショックの恩恵を受けられない上に原木価格が上がったため、苦しんでいる事業者が多いことである。

### ○高田 座長

製材所が扱っている材種によってウッドショックの影響が違うことは重要な点だと思う。続いて集成材の状況について伺っていく。

### ○(株)ウツィかわい 小野寺 常務取締役 総務企画部長

取引先からの受注は落ちていない。営業先のプレカット工場からは合板が足りていないことから工場の回転が悪くなっているため、柱の供給を待ってほしいという話があると聞いている。製材の生産も冬季を迎えて、生産が落ちてきており悩んでいる。協力工場についても雪の多い地域の製材量は生産が落ちてきている。生産性を落とすたくはないが、ラミナ原板の不足が見え始めてきている。今週に入り原木価格がさらに上がっているとの話があり、ラミナ単価の見直しのお話をいただくようになってきたところ。

### ○協和木材(株) 矢口 管理部部長

ウッドショックが始まった当初の何でも欲しいという状況からは若干落ち着きが見られる。集成材についてはまだ需要が高く、全ての顧客に満足のいく量を出せていない状態。なんとか工場はフル生産で稼働している状態。冬季は雪の影響もあり、製材の生産が厳しいこともあるが、秋までにラミナ在庫を確保して集成材に供給してなんとか生産を続けていく。原木の価格高騰はどれも同じような状況であり、当社も苦勞している。集成材生産は止められないので、ラミナ在庫を使用してフル稼働を続けていく。

### ○石巻合板工業株式会社

ここまで合板の入荷不足と価格高騰について意見が多く出ているところ。合板は2020年の夏ごろに減産を行ったが、秋口以降は通常生産に戻っている。2021年に入ってウッドショッ

クとなり、輸入材入荷不足から国産材で代替をしようという取組が西日本から広がっていった。その後、秋口から緩やかに東日本の原材料高騰へと繋がっていったところ。

原材料の確保は非常にタイトな状態が続いており、今はほぼフル生産しているが以前のように増産は出来ていない。働き方改革により、勤務時間に限りがあることなどが要因。

全国的な合板在庫は大体0.3か月と言われていて、増えてきていない。寒波による原木の凍結のため、生産が伸びてきていない。合板工場は頑張っているが、原材料確保の苦戦や働き方改革による勤務時間の制限により、いつまで現状が続くのか分からないところ。

#### ○高田 座長

製材・集成材・合板工場ともにフル稼働だが、どこも増産は難しい。働き方改革により増産が難しいのならば、生産性を高める等、今後の対策が必要になると思う。山側も含めて今後、働き手が減っていくので、いかに生産性を上げるか、考えていかないといつまでたっても解決策が出てこない状況になってしまう。

続いて、少し視点を変えて製品の動きの状況について伺いたい。

#### ○物林(株) 関口 国産材事業推進部 盛岡営業室 室長

ウッドショックから国産材への問い合わせが増えている。実際に国産材に切り替えて使っていただいている住宅会社も増えてきている。しかし、単価が上がったことにより、一部では粗悪品が出回り、国産材への悪評に繋がってしまい残念に感じている。

住宅会社を巻き込んで川上から川下まで協定を結ぶなど、安定した国産材供給を実現させたい。

#### ○高田 座長

続いて、川中のチップについて話を伺いたい。

#### ○新北菱林産(株) 今堀 代表取締役社長

前回に比べて、状況は悪化しており、原木調達がさらに厳しい。事前のアンケートを見ると他の会員でも特に広葉樹原木の手当てが苦しいとなっている。当社は岩手県にある製紙工場にチップを供給しているが、この製紙工場は国産広葉樹100%で操業しており、供給が非常に苦しい。従来ならば岩手県、秋田県から供給していたが、青森県からも供給を受けるようにしている。

針葉樹の生産が盛んになればC材も増えるかと思っていたが、従来ならば合板用材には規格外のものまで、合板工場に流れてしまっている状況。11、12月には原木在庫が底をついたチップ工場があり、その他も春先までの原木が足りないチップ工場がある。

アンケートにはチップ工場を原木集荷の価格弱者と書いたが、今の原木価格状況では製紙用のチップ工場では価格を上げて集荷することができず、上げて量には反映されないため、木材業界の中で埋没してしまっている。経営状態もかなり厳しくなっているところ。

#### ○日本製紙(株) 石巻工場 西川 事業部長代理兼原材料課長

2021年の紙の生産量は2020年比で横ばい、しかしコロナ前の2019年比では15%減となっている。

2021年の段ボール生産量は2020年比で4%増、2019年比で1%減と、段ボールの方が状況は良い。

新聞等需要が落ちていることから釧路工場を閉鎖し、岩沼工場でのフル生産体制が続いている。2021年の前半は地震や各生産拠点でのトラブルなどがあり、供給いただいたチップ工場には迷惑をかけてしまった。11月以降の下期についてはフルで集荷しており、背板を好調に供給いただいていたが、今後の原木価格の高騰が心配なところ。

## ○高田 座長

続いてバイオマス発電についてお話を伺いたい。

## ○(株)北越マテリアル 大矢 代表取締役

弊社は山形3工場にて、バイオマス向けのチップ供給を行っている。林野庁から話があったが、バイオマス発電向けの燃料使用量は増加傾向。価格は横ばいだが、未利用材の価格が上昇傾向であり、今後の課題としては未利用材の在庫の確保。特に東北は冬の素材生産作業が無くなってきており、確保に苦労しているところ。バイオマス向けの燃料用チップについては今後も使用量の増加が続くと見込まれる。

## ○高田 座長

ここまで川中の様々な業態から報告いただいた。

続いて、川上についてお話を伺いたい。

## ○青森県森林組合連合会 宮内 事業部長

森林組合系統は保育作業が増えており、生産量は伸びていない。また今年は雪が多く、生産が増えていない状態。原木価格はどれくらいが妥当かという点と難しいが、県森連としては山元還元が命題であり、今までの原木価格が安すぎたと考えているため、今後も今のレベルで推移していただきたい。

## ○宮城県森林整備事業協同組合 守屋代表理事

素材とチップ、ペレットの生産、市場運営、建設工事も行っている。

今回の価格変動を見ると、仙台では9月上旬に製品価格のせり上がりが止まり、その後は下がってきている。

宮城県では合板用の丸太の需要が無い時期に山形県、岩手県が値段を上げて集荷を行った。その後、合板用の丸太が足りなくなったところには、生産が抑制されて、出材意欲が下がっていたために値段の差が出てしまった。生産を増やすため、小松などの大手重機メーカーと24時間伐採するにはどうしたら良いかと相談しているが、うまくいっていない。

ウッドショックを全体的に見て、立木価格が上がる時が来たのだろうと思っている。木材は東京五輪の時に関税がなくなり、国際商品になっている。当時、国産材の購入量を100m<sup>3</sup>から10,000m<sup>3</sup>に増やそうとすると割高になっていた。そのため、全国展開を目論んでいた大手ハウスメーカーは、国産材から輸入材に転換してしまった。

今は原木の国際的な市場価格が上がったので、国内で調達しようとしている。これは木材が国際的な値段で決められている中、日本は他国と比較して安くなっていたため、今の状態になっているといえる。つまり、海外で調達していた事業者は買い負けるようになってしまったと解釈している。

今回のことで山に力をつけることができるのではないかと期待しており、国産材の値段が是正されれば、労働力も戻ってくるのではないかと期待している。

多くのバイオマス発電工場が出来ているが、紙の消費量の減少からバイオマスに流れるようになるといった構造変化が起きている。価格の上がっている今、どのように事業を継続していくのか考えていかなければならない。

## ○高田 座長

木材は以前から世界的なマーケットで取引されているので、原木丸太も世界的な市場価格のもとで価格が決まるべきというのは当然のこと。

国産集成材と欧州集成材の価格の中身を比較すると、どこにコストをかけているのかという構造に違いがあると思う。そこを考えると日本の工場も体力、技術を上げていくことが重要になると考えている。

### ○秋田県素材生産流通協同組合 山田 理事長

秋田県は素材生産事業者が本格伐採時期を迎えており、生産量は例年並みとなっている。ただ雪が多く、例年以上に手間がかかっている。国産材に注目が高まっており、需要が増えて足りなくなっていることが価格の高騰として表れている。生産期待に応えられるよう、今後も力を入れていく。

### ○ノースジャパン素材流通協同組合 小野寺 営業企画部部長

雪の影響がかなりあり、一時的なブレーキが掛かっているが、長い期間で見るとコロナ前と今は生産量に大きな違いはない。生産自体は順調だが、加工工場からの引き合いが高まったため、原木不足となっている。

出荷先にもよるがコロナ前の需要に対して、現在は平均して2割ほど増えているところ。需要に応じて素材生産者が増産体制を取ることが出来れば良いのだが、簡単にはいかない。人手不足もあるが1人、2人増やしても生産性は大きく上がらない。1班増やせば、生産性は上がるが、人を増やして機械を増やすと億単位の設備投資であり、なかなか踏み切れない。

ロシア短版の入荷が悪くなったことからカラマツの引き合いが強くなっており、月ごとに値上がりしている。山側の立場からすると、価格の高値安定が続けば設備投資できるかなと思っている。素材生産が増産できるかは今後も課題といえる。

### ○高田 座長

種苗の参加者がいらっしゃらないので、事務局から種苗のアンケートについて報告いただきたい。

### ○ノースジャパン素材流通協同組合 一条 参与兼経営企画管理部部長

秋田県、青森県の種苗組合から回答をいただいている。

苗木の出荷量はどちらもやや減少

今後の見通しは、秋田県が前年並み、青森県はやや減少。

出荷先ニーズの変化は、秋田県があり、青森県は現状どおり。

秋田県の杉コンテナ苗の需要が増加傾向。国有林のコンテナ大苗や少花粉杉のコンテナ苗の需要がある

青森県は昨年より需要が減少しており、今後も減っていくのではという見込み。

### ○高田 座長

原材料の確保の要望は川下から引き続き出てくるが、急な増産は難しいという現状にも理解をいただきたいという話だったかと思う。

続いて、行政にも話を伺いたい。

### ○東北森林管理局 間島 森林整備部長

国有林は前回の協議会以降も、少しでも市場に多く出材出来るように取り組んでおり、販売では検査を通常は月に1、2回のところを週に1、2回行い、山に溜めずに早くお届けするようにしている。例年だと年末は予算等との兼ね合いから生産について種々の調整もされるところだが、本年度は除雪経費も確保し、最後まで走り切ることが出来るように対応している。

また、生産は大詰めまできているが、一方で、立木販売も今年は国造分について例年の5割増しで公売をかけており、契約ベースだと例年の2倍の成制約をいただき、分収林も含めて例年の1割以上多いくらいの供給となっている。

また、来年の事業を調整しており、みなさんから先行きの見通しを伺いながら、来年さらに生産量を増やすことが出来るように対応していく考えである。

**○岩手県 林業振興課 千葉 技術主幹兼林業・木材担当課長**

ウッドショックにより、大変な事態とはなっているが、この追い風を活用して生産量を増やし、林業振興していくという見方もある。

岩手県では初めて木材を活用した住宅補助を行った。これまで対象としていた事業者には輸入材一辺倒の工務店も多かったが、国産材にシフトするという事例も見られたところ。岩手県では若い世代を増やして、人口減対策もしたいという思惑もあるので、県産材を使った取り組みを増やしていきたい。ただ、ウッドショックの中で木材の調達に苦労したという話も聞いているので、地域的なサプライチェーンを立ち上げる検討会を開いていきたいと考えているところ。

**○高田 座長**

ウッドショックを追い風に安定的な需給関係を構築できるようになるため、行政からも働きかけを行っていくとの話だったかと思う。

続いて、補正予算に対する林野庁の説明を伺いたい。

**○川本班長**

補正予算について説明

**○高田 座長**

岩手大学の伊藤先生にも全体を通しての感想を伺いたい。

**○岩手大学農学部 伊藤准教授**

今回のウッドショックは社会問題化し、マスコミにも大きく取り上げられ、一般の方にも知られている。林業の業界を超えた問題なのだと感じている。

森林林業の勉強をして木材価格が上がる経験は30年の中で初めての経験。林業にとって良い方向に向かうのか、一時的な騒動で終わってしまうのか、こちらをどう見極めるのか。

私が特に気にしているのは、山作りを含めた山村の持続性と労働者の賃金が上がっていかないことが心配な部分。山側の力が強くなり、政策面でも資源や人材の持続性を後押しするようになるきっかけになればと考えている。

**○高田 座長**

輸入材の代替材として国産材が注目されているが、具体的にはどんな材種で、どこで使われるのか、どのようなスペック、材質が求められていて、業界がどのように対応していくのかなど、問題をブレイクダウンしていきたいと考えている。今後、チャンスがあれば具体的な材種に対する技術開発や東北は特にこのような材が足りないからスギで代替できるようにしてほしい等の情報共有ができれば、良い成果になるのではないだろうか。

**○林野庁 木材産業課 永島 課長補佐**

いわゆるウッドショックは稀に見る業界の流れだったかと思う。皆さんも不安を抱えた中とは思いますが、情報や意識を共有する一助になれたかと思う。本日の協議会でも素材生産、加工がフル稼働され、地域の需要に応えるように対応していただいているという話を伺うことができた。ただし様々な問題もあるため、前向きな国産材への転換といった話が聞けるように今後も引き続き協議会を行っていきたいと考えている。どのような内容で続けていくかは検討段階だが、皆さんに意見をいただき、実のある内容にしていきたい。今後ともよろしくお願ひします。

(以上)